

一乗谷城跡

(一乗城山 473m と遺跡)

※(山行日) ----- 2021 年 4 月 27 日(火)

(メンバー) --- 計 8 名 (弥生班 4 名、他班 4 名)

※(行 程) [予定]

※(行 程) [結果]

(往路---車移動)

○岩出図書館 (出発) 5:00
○一乗谷史跡公園 (到着) 9:00

(山行).

① 馬出登山口 ----- 9:10

【馬出(うまだし)ルート】

② 千畳敷 ----- 10:30

③ 一乗谷史跡山頂 (昼食)-- 11:30
山頂出発 ----- 12:00

【英林塚(えいりんづか)ルート】

④ 英林塚復原町並 ----- 13:20
(一乗谷朝倉氏遺跡の見学)

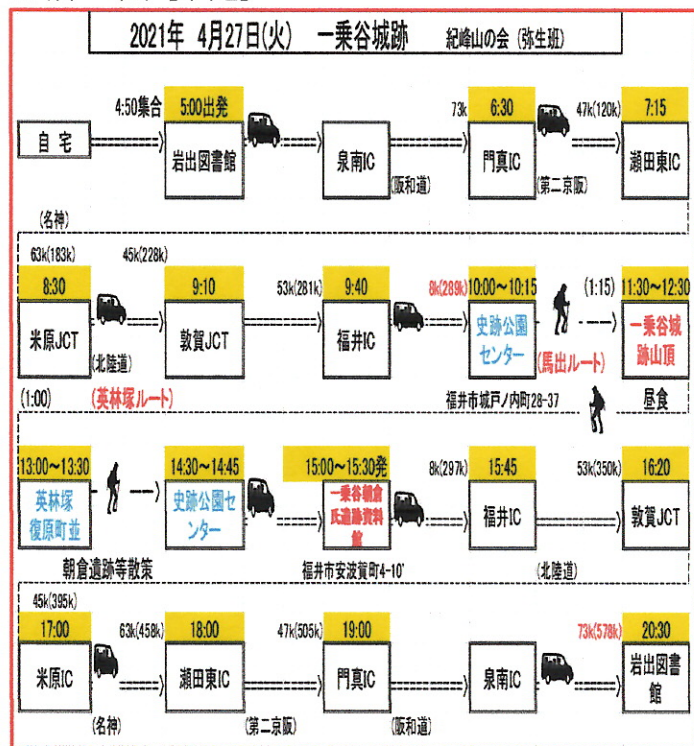
⑤ 一乗谷史跡公園 ----- 14:00

⑥ 遺跡資料館 ----- 14:30

⑦ 永平寺 ----- 15:30

(帰路---車移動)

○永平寺 (出発) 16:00
○岩出図書館 (到着) 20:00



※[はじめに]

※[歴史を知る] (パンフレットより引用)

(一乗谷城跡)

- ・一乗谷城は、越前を支配する朝倉氏の政治・文化の中心地であり、応仁の乱で荒廃した京を逃れた多くの公家や高僧、文化人達によって栄えたが、1573 年(天正 1)織田信長の越前侵攻によって放たれた火によって焼け滅びた。
- ・近年、周辺の発掘調査が進んでおり、その結果や史料を参考に当時の町並みが復元され、「復原町並」として公開されています。
- ・一乗谷城と山麓の城下町(朝倉氏および家臣の居館)からなる遺跡全体が国の「特別史跡」や「日本 100 名城」に選ばれています。

(朝倉氏)

- ・朝倉孝景(1代)は越前一国を治めた戦国大名へと朝倉氏を飛躍させた人物で、以後、朝倉氏は氏景(2代)、貞景(3代)、孝景(4代)(初代と同名です)、義景(5代)まで5代約百年にわたってこの地域と幕府に重要な地位を占める大名家として続いたそうです。

・本日は福井県の一乗谷城跡を目指し早朝出発。若葉が芽を吹き、朝靄で、まさに「春は曙」といった気分です。
今回の山行のテーマは、「歴史に触れ、歴史を知るぶらり旅」で、出発進行。

(一乗谷朝倉氏遺跡ロードマップ)



※[歴史に触れる]

(写真1) (一乗谷史跡公園)



(写真1の解説) (9:00)

- ・和歌山出発時はうす暗かったが、一乗谷史跡公園に到着時は晴天。
- ・高速道路もすいすい走行でき、予定より1時間早めに到着。
- ・まずは、到着記念に「紀峰山の会」の旗を掲げ、今日も楽しく山行を祈願しハイ・ポーズ。

(写真2) (馬出登山口から出発)



(写真2の解説) (9:10)

- ・一乗谷城跡へのルートは、下城戸(しもきど)、馬出(うまだし)、三万谷(さんまんたに)、英林塚(えいりんつか)の4ルートがあり、今回は、往路は馬出ルート、復路は英林塚ルートの計画である。

(写真3) (馬出ルート)



(写真3・4・5・6の解説)

- ・馬出ルートは、山麓の八幡神社横の登山口から登り、最初から急登が続く。先頭は、適宜入れ替わる。

(写真4) (馬出ルート)



(写真5) (馬出ルート)



(写真6) (馬出ルート)



(写真 7) (不動清水)



(写真 8) (不動清水の案内板)



(写真 7・8 の解説)

- ・不動明王を表した石仏の足元から水が湧き出ている。
- ・山城で唯一の水源であり、この清水を荒らすと荒天となると、案内板に書かれている。

(写真 9) (山頂へ向かう)



(写真 10) (千畳敷跡)



(写真 10 の解説) (10:30)

- ・千畳敷跡は山城で最も広く(約 1500 m²)、地表には大きな磁石が残り、大規模な建物があつたと考えられ山城の中核であり、長期の籠城に耐えられるような居住空間が作られていた。とのこと。(歴史に触れ、ハイ、ポーズ!!)

(写真 11) (更に山頂へ向かう)

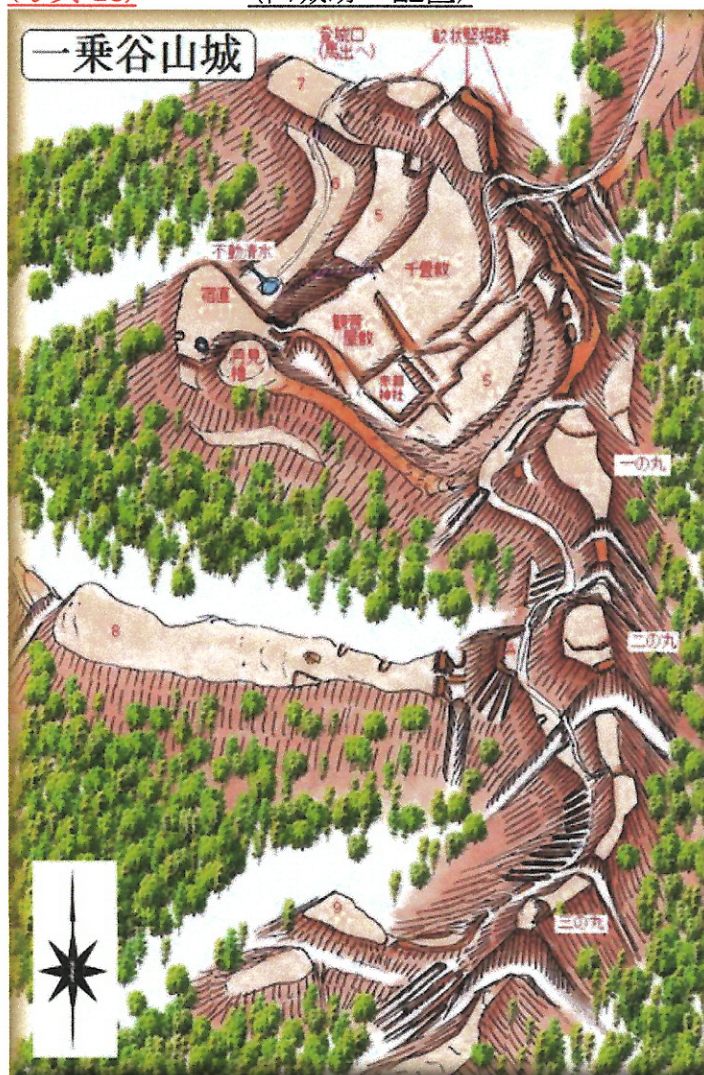


(写真 12) (途中、枝の隙間から白山が見えた)



(写真 13)

(山城跡の配置)



(写真 14)

(山城跡)



(写真 13・14 の解説) パンフレットより引用

(一の丸跡)

- 一乗谷城の防御の中心である曲輪群の最も北に位置する。面積は約 1100 m²で、二の丸との間に幅 7.6m、深さ 2.5m の堀切がある。曲輪とは……城の内外を土塁、石垣、堀などで囲まれた区画のこと。堀切とは……外敵の侵入防止や遅延のために人工的に開削して溝 (空堀)。

(二の丸跡)

- 独立した曲輪が形成され、2 条の堀切で区画されている。面積約 570 m²。

(三の丸跡)

- 3 つの曲輪で構成され、面積約 430 m²。標高 473.58m の基準点がある。

(宿直跡)

- 宿直(とのい)と読み、「殿(との)居(い)」の意味で戦国時代には見張りがいたところと考えられる。

(写真 15) (三の丸…… 一乗城山) (1 1:0 0)



(写真 17) (宿直跡にて) (1 1:3 0)



(写真 16) (宿直跡にて)



(写真 15・16・17 の解説)

- 千疊敷跡から一の丸、二の丸、三の丸まで約 30 分。その奥に一乗城山頂上がある。歴史に触れ皆さん感動し、記念撮影。
- 宿直跡は景観がよく、ここでもハイ、ポーズ。
- お腹が空いたので、ランチタイムに……まずは、ノンアルコールで乾杯～

(写真 18) (道中での植物)



(マムシ草)

(写真 19) (下山は英林塚ルート)



(余談 1) 道中、ランチタイムの会話でのこと。
・メンバーは高齢者ばかりのため終活の話となり、エンディングノートを書いた人があるとか……。きっかけは子供さんからノートを送られ、「嬉しいやら悲しいやら」の話題となった。
大事なことであり私も作っておこうと言う人や、遺影写真用に、本日、花の綺麗な場所で撮影した人もありました。
誰とはいいいませんが……

(余談 2)

・山行途中、杉の木にネクタイとペンが置かれていた。何のために?、メンバから首つりを思い立っておかれたのかなあ〜。そんなことないやろ〜。

(写真 20) (不思議な光景?)



(写真 21) (一乗谷川の橋にて) (1 3 : 2 0)



(写真 22) (一乗谷朝倉氏遺跡 復原町並)



(写真 23) (唐門 朝倉館跡)



(写真 24) (説明を受け歴史を学ぶ)



2021/4/27

(写真 25) (映像で歴史を学ぶ)



(一乗谷朝倉氏遺跡)

- ・一乗谷朝倉氏遺跡は福井市街の東南約10kmにあり戦国時代朝倉氏五代の城下町の跡がそっくり埋もれていました。
- ・京都の金閣寺や広島の厳島神社に並び国の三重指定(特別史跡・特別名勝・重要文化財)を受ける大変貴重な遺跡となっています。栄華を極めた城下町の街並みをほぼ完全な姿で再現しており、戦国時代にタイムスリップしたような感覚になります。

(写真 26) (復原町並の案内板)



(特別名勝-4庭園)

- ・遺跡内には、文化史上きわめて価値の高い4庭園が特別名勝として配置されていた。
- ① **(南陽寺跡庭園)**
 - ・後の室町幕府將軍となる足利義昭を招いて観桜と酒宴を催した庭園とされている。
 - ② **(朝倉館跡庭園)**
 - ・第5代当主の朝倉義景の館跡庭園。
 - ③ **(湯殿跡庭園)**
 - ・一乗谷最古の庭園で、水路が山際に沿って走り滝口に注ぐ池泉庭園になっている。
 - ④ **(諏訪館跡庭園)**
 - ・朝倉義景の妻「小少将」の館跡で、遺跡の中で最も大きく、中心の巨石には、3代貞景、4代孝景の法名が記されている。

(写真 28) (英林塚のお花畑で)



[最後に]

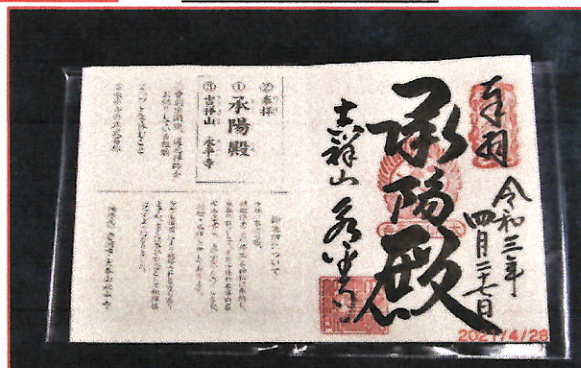
- ※・今回は、一乗山の城跡と谷筋の武家屋敷などが建ち並ぶ防御性の城下町が一体化となった「一乗谷朝倉氏遺跡」を探索し、戦国時代にタイムスリップした山行となりました。
- ・現地を見て、案内人の説明を聞き、資料館での遺跡物や、映像化された歴史を見学しまさに「歴史に触れ、歴史を知るぶらり旅」を満喫しました。

(写真 27) (一乗谷城の御朱印)



- ・一乗谷城の御朱印は、2種類ありました。1つは、「明智光秀ゆかりの地」と記されており、明智光秀は一乗谷の朝倉氏に仕え、一時期をこの地で過ごしていたといわれています。

(写真 29) (永平寺の御朱印)



- ・予定より早く山行したので、追加で永平寺にちょこっと寄りました。